

令和8年(2026年)2月9日(月)

議会運営委員会終了後

# ～ともにいきる「健康しが」～

令和8年度(2026年度)

滋賀県当初予算案および組織改編案



琵琶湖とくらしを守る。  
三方よして笑顔を広げる。  
豊かな未来をともにつくる。

2026年2月3日

滋賀県

## 目 次

### 1 令和8年度当初予算案および組織改編案の作成にあたって

当初予算案作成にあたって	2
物価高騰の影響を踏まえた取組	3
暮らし・社会のり・デザインに向けて	4
「国スポ・障スポ」のレガシーの継承・発展	8
EXPO 2025「大阪・関西万博」の経験を未来に	11
一般会計当初予算案の規模および財源不足への対応	13
ヒト・財源の配分のシフト	13
組織改編について	14
職員定数について	14

### 2 施策の柱ごとに重点的に取り組む施策

柱①_子ども・子ども・子ども	22
柱②_ひとつづくり	41
柱③_「暮らし」と「健康」づくり	59
柱④_「安全・安心」な社会づくり	77
柱⑤_「産業・経済」の基盤づくり	88
柱⑥_豊かな「自然」を育む環境づくり	108
集中的な取組_県北部地域の振興	120

## 1 令和8年度当初予算案および組織改編案の作成にあたって

### 当初予算案の作成にあたって

令和8年度(2026年度)は、  
次なる四半世紀(2026-2050年)の始まり

「拡大」や「定常」を基調としていたこれまでの四半世紀(2001-2025年)とは、  
人口構造の変化や技術の進展など、社会の様相が大きく変わっていくことが想定される。

そうしたなかでも、暮らしに必要な機能を持続させ、豊かで充実した暮らしを営むために、  
今をいきる私たち一人ひとりが、未来を想像しながら考え、  
大切なことは守りながらも、これまでの“当たり前”を変えることや創りなおすこともいとわず、  
私たちの「暮らし」や「社会」のあり方を「みんなでリ・デザイン」していくことが重要。

来年度は、その端緒とすべき年であるとの意識を持って、できることから実行に移していく。

### 当初予算案に込めた思い

ともいき ともうみ ともそだて

ともにいきる「健康しが」

## 物価高騰の影響を踏まえた取組

国の経済対策における物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、日々の暮らしを身近で支える市町とともに、物価高騰の影響を受けている生活者や事業者の支援を行う。

※各事業は、令和7年度補正予算または令和8年度予算で実施

令和8年度当初予算	3,209,249 千円
令和7年度補正予算	6,837,477 千円

### ▶ 日々のくらしとしごとを支える

- ✓ 保育・医療・福祉施設の運営支援(食料品価格や光熱水費高騰対策等)
- ✓ 子育て世帯やひとり親家庭に対する支援  
(公立小学校の給食費の負担軽減、ひとり親家庭への滋賀県産米配付等)
- ✓ 一般消費者へのエネルギー価格高騰対策
- ✓ 中小企業等へのエネルギー価格高騰支援
- ✓ 農畜水産業の経営強化支援、県産食材の消費拡大
- ✓ 地場産業・伝統工芸品・酒造等の事業継続支援
- ✓ 交通・物流事業者等への支援 等

### ▶ 未来を見据え、しなやかに

- ✓ 家庭における省エネ・再エネ導入の後押し(スマートライフスタイルの普及促進等)
- ✓ 賃上げにつながる生産性向上等に資する取組の後押し
- ✓ 生成AIの活用等による業務の効率化・省力化への後押し
- ✓ 観光事業者の収益強化につながる取組を支援 等

## 暮らし・社会のリ・デザインに向けて

次なる四半世紀に向けた端緒の年に ~2050年を見据え、できることから実行~

「暮らし」や「社会」のあり方をリ・デザインしていくために

- ✓ これまで種を蒔き、積み上げてきたことをさらに充実させる
- ✓ 守るべきは守りながら、滋賀の強みを伸ばし、高めていく
- ✓ 多様な人たちが様々な場面で活躍し、役割を担うことができる社会づくりを進めていく

☞ あわせて、限られた経営資源の効率的な運用と**県庁組織体制**の不断の**見直し**、従来の枠組みを超えた**広域連携の模索**等といった自治のあり方の検討をしながら、できることから実行する年にしていく。

### ▶ “医療・福祉” 「支えあいのしくみ」のリ・デザインに向けて

高齢者割合の増加など、人口構造の変化にあっても**持続可能な支え合いのしくみ**の構築を模索

- ✓ 医療や介護職場の環境改善 ☞ “支えるひと”が働き続けられる環境づくり
- ✓ 医療福祉拠点の整備 ☞ “支えるひと”を育てる
- ✓ 認知症バリアフリー地域づくり ☞ 認知症になっても、地域で役割を持って活躍し、安心して暮らせる地域づくり
- ✓ レイカディア大学の充実 ☞ 生きがいづくりや地域で支えるひとづくり

### ▶ 「社会的処方」の新たな取組

- ☞ 文化活動等の地域資源を生かしたモデル事業
- ☞ 美術館・博物館の職員や医療・福祉関係者等対象の研修会

### ▶ “子ども・若者”とともに社会をリ・デザイン

**子ども・若者と一緒に創る**

- ✓ オンライン・プラットフォーム ☞ 子どもの意見聴取とフィードバック
- ✓ しが若者アイデアソン ☞ 若者のアイデアを事業化

**学び・体験の機会や環境づくり**

- ✓ しがこども体験学校 ☞ 自然、人、文化等に直接触れる体験プログラムの充実
- ✓ こどな BASE
- ✓ 魅力ある県立高校づくり ☞ 将来を見据えた、高校の魅力化と在り方検討  
→ 高校教育の学びの充実、高校の配置の検討

▶ **学びを応援する「(仮称)坂口志文しが未来サイエンス賞」の創設**

坂口志文先生のノーベル賞ご受賞を記念として、滋賀の子ども・若者の学びの意欲や探究心を応援する表彰制度を創設

▶ **“ともにいきる滋賀” 違いがあることが当たり前前の包摂性を持った社会づくり**

**ジェンダー平等の推進**

「(仮称)パートナーしがプラン 2030」の着実な推進と、プランで掲げる目標をもとに、地方自治体初の「ジェンダー平等債」の発行(令和8年6月予定)を目指す

**男女共同参画・女性活躍推進本部において、部局横断で推進**

- ✓ 男女間賃金格差の縮小に向けた取組促進
- ✓ 女性起業家のための総合窓口を設置
- ✓ 多様な主体が交流し、学びを深め、地域のジェンダー平等を推進
- ✓ 建設産業・林業等での女性の担い手確保・育成推進、保育環境の充実 など

**多文化共生社会づくり**

総合的な取組の推進とともに、コミュニケーションの入り口である日本語教育の環境整備に重点

**滋賀県多文化共生推進本部等における庁内連携・取組推進**

- ✓ “コミュニケーションの入り口”の環境整備
  - ☞ 「(仮称)滋賀県地域日本語教育センター」の設置 (国際課内)
- ✓ 多文化共生フェスタや県内各地での交流の場づくり、人権啓発
- ✓ 帰国・外国人児童生徒の公立学校への受入促進や日本語指導の充実、保護者を含めた支援体制の整備 など

**人材循環による関係人口の創出**

- ✓ 人材循環で拓く持続可能な地域創造事業
  - ☞ 二地域居住者、副業・兼業、プロボノ人材など多様な主体の活躍を支える仕組みづくり

- ▶ “暮らしの基盤づくり”にかかる組織力・実行力を高め、人口減少社会にあっても、生活機能を持続させ、豊かで充実した暮らしを営むために

#### 県土整備

- ✓ インフラの着実な整備と適切な維持管理
  - ☞ 組織としての即応力・実行力を高め県民の命と暮らしを守る

#### 交通まちづくり

- ✓ 「交通」と「まちづくり」に一体的かつ重点的に取り組む
  - ☞ 本県の強みを活かし、持続的な発展が可能なまちづくりを推進

- ▶ 滋賀の強みを活かした“まちづくり”のさらなる推進

#### 滋賀の地域交通 ～移動手段の充実による「より良い暮らし」の実現～

- ☞ 新しい地域交通計画のはじめの一步として、これまでの公論熟議の積み重ねを踏まえ、取組を着実に進める
- ✓ 地域交通を積極的に利用する機運醸成
  - ・ 滋賀の地域交通未来アイデア会議 ☞ 地域交通の積極的活用と財源のあり方の議論
- ✓ 「行かなくてはならない移動」を支える
  - ・ バス・デマンドタクシーの運行支援
  - ・ バス・タクシー運転士確保
  - ・ 近江鉄道線、信楽高原鐵道線の支援
- ✓ 地域のあらゆる移動手段を便利に
  - ・ びわこ文化公園都市エリアでのバスの実証運行
  - ・ ユニバーサルデザイン対応タクシー車両の導入支援
- ✓ DX・GX の取組推進
  - ・ 自動運転バスの実証運行 など

#### THE シガパークの推進 ～滋賀の公園の魅力さをさらに束ねて～

- ✓ ビジョン策定
- ✓ インフラ施設(トイレ、駐車場、看板等)のベースアップ
- ✓ 湖岸緑地の利用適正化
- ✓ 希望が丘文化公園のPFI事業者の決定
- ✓ 公園を活用した健康づくりの促進 など

▶ “産業の創出”や“成長産業への進出”

ものづくり、農業、医療、観光、環境なども含め、滋賀の強みをいかす産業の可能性を追求

- ✓ 先端分野に関する大学の研究拠点の集積
- ✓ 高度・独自のコア技術を持つ企業の集積
- ✓ オープンイノベーションのハブとなる支援機関
- ☞ 国の動きも踏まえ、県における**新たな産業クラスターの形成**に向け、吸引力やネットワークの核となる拠点機能の強化を目指す

▶ そのためのキックオフとして「次世代産業創出に向けたあり方検討」

- ・ 本県の産業・技術分野の優位性を活かした取組の方向性を検討
- ・ 産業の未来像を県内外に発信し、新たなイノベーション創出を喚起する企画、検討を行う

▶ 滋賀県ならではの「びわこボート」。未来を見据え“活かす”ための体制強化

ボートレース競走事業会計から一般会計への繰入金 30 億円のうち 15 億円を琵琶湖管理基金に積み立て

## 「国スポ・障スポ」のレガシーの継承・発展

### 湖国の感動「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ 2025」

#### ▶ 国スポ

【会期前】 2025.9.6~9.15、9.21~9.25

【本会期】 2025.9.28~10.8

【来場者数】 のべ約 60.4 万人



男女総合成績 第1位(天皇杯) 女子総合成績 第1位(皇后杯)

#### ▶ 障スポ

【本会期】 2025.10.25~10.27

【来場者数】 のべ約 8.2 万人

メダル獲得数 合計 174 個(過去最高)



#### 環境に配慮し実践する大会

- ✓ マイボトル持参の呼びかけ ☞各会場での給水 ペットボトル約 39,000 本分
- ✓ リユース食器で環境配慮 ☞約 1 万個の再利用
- ✓ CO<sub>2</sub>ネットゼロアクションチェックシート 670 人・38 事業所が参加 ☞CO<sub>2</sub>削減量 11.35t

#### スポーツの力でつくる共生社会

- ✓ 「カムダウンスペース」を障スポ全会場に設置
- ✓ 音声配信サービスを用いた実況配信や国スポでの情報保障席設置など、障害の有無に関わらず楽しめる工夫
- ✓ 大会をきっかけに共生社会の実現への関心が高まった ☞86% ※来場者アンケートより

#### おもてなしで滋賀の魅力発信

- ✓ 県産食材や郷土料理を盛り込んだ式典弁当
- ✓ おもてな SHIGA エリア:滋賀の食の提供、グッズ販売、お菓子のふるまい等
- ✓ 開・閉会式をはじめ、各競技会場でのべ約 10,000 人のボランティアが活躍

#### 子ども、若者、女性が活躍

- ✓ 学校観戦等 約 300 校、約 35,000 人の子どもたちの大声援
- ✓ レイキッズ卒業生の活躍

- ✓ 県内大学・専門学校生等、およそ 1,700 名が障スポ選手団のサポーターとして参加
- ✓ 高校生を中心とした競技補助員のべ約 15,000 人の活躍

スポーツを「する」だけではない、様々な価値が育まれた大会

## レガシー継承・発展に向け、2026年再始動

### レガシーの継承・発展

大会で得た感動や経験、大会を通じて生まれた  
“人とスポーツとの様々な関わり”を未来への糧に!

スポーツのちからで  
かわる つながる ひろがる SHIGA

#### ▶ かわる

- ✓ まちがかわる
  - ・ シンボルスポーツの創出と定着
  - ・ スポーツ施設の利用促進や有効活用
- ✓ 移動がかわる
  - ・ ライドシェア等の実証、新たなモビリティの検討
- ✓ 学校での活動がかわる
  - ・ 部活動改革(地域連携等の推進)

- ▶ 2030年までにシンボルスポーツ定着を目指す
- ▶ 2027年に県内の公共スポーツ施設の利用者数を880万人以上に
- ▶ 中学校部活動における地域連携の推進と地域展開を見据えた対応

#### ▶ つながる

- ✓ ひとがつながる
  - ・ 観光コンテンツの磨き上げ
  - ・ 「食」を通じたファンや関わりの創出
  - ・ 県HPに構築した魅力発信ページを活かした情報発信
  - ・ パラアスリート交流
- ✓ 行動につながる
  - ・ 健康づくりの推進
  - ・ しがプラスチックチャレンジプロジェクト

- ✓ 大会の経験がつながる
  - ・ 近畿ブロックインターハイ(2026年)
  - ・ ワールドマスターズゲームズ関西(2027年)
  - ・ サイバーセキュリティの確保、テロ対策等の推進

- ▶ 2027年に観光入込客数を6,000万人(過去最高)に
- ▶ 客観的健康寿命のさらなる延伸を目指す
- ▶ 給水スポットのさらなる増加を目指す

## ▶ ひろがる

- ✓ 夢・可能性がひろがる
  - ・ ジュニアアスリート育成
  - ・ アスリートのセカンドキャリア支援
  - ・ 子どもの体験活動の充実
- ✓ 楽しさひろがる
  - ・ スポーツの集客力を生かした公園の魅力発信
  - ・ レベルや特性等に応じたスポーツ振興
  - ・ スポーツ人材の育成
- ✓ 裾野がひろがる
  - ・ パラスポーツ実施機会・環境の充実
  - ・ 子育て世代のスポーツ環境整備
  - ・ 共感を広げ、支える人の裾野を広げる
- ✓ 大会を機に醸成された機運がひろがる
  - ・ スポーツ施設等へのウォーターサーバー設置
  - ・ 共生社会づくり、ユニバーサルデザイン
  - ・ 手話等による意思疎通の促進
  - ・ 社会全体で取り組む治安対策の強化

- ▶ 2027年にスポーツを観戦した県民の割合を40%以上、スポーツボランティア参加者数を3,800人以上に
- ▶ 共生社会になっていると感じる人の割合をUP

大会を契機に生まれた有形無形のレガシーで「健康しが」を深化

## EXPO 2025 「大阪・関西万博」の経験を未来に

### ▶ 大阪・関西万博

【会期】 2025.4.13～10.13(184日間)

【総来場者数】 約 2,900 万人

165 の国・地域・国際機関が参加



### 開催期間中の滋賀県の取組

- ✓ 関西パビリオン内「滋賀県ブース」 Mother Lake ～びわ湖とともに脈々と～
  - ☞ 来場者数約 40 万人
- ✓ 滋賀魅力体験ウィーク ～Discover Shiga, Go Lake Biwa～
  - ☞ 54 の団体が出展、約 12 万人が来場
- ✓ 滋賀県デー～びわ湖サマークルーズ～(7.24 開催)
  - ☞ 県内の団体や本県ゆかりの著名人によるステージ
  - ☞ 会場前広場も含めた総来場者数 約 12,750 人
- ✓ 会場への子どもたちの招待
  - ☞ 53,298 人にチケットを提供      ☞ 子どもたちが世界や未来を体感
- ✓ 海外企業等向けビジネス視察相談窓口「Tech Tour SHIGA」
  - ☞ セネガル、ガイアナ、ベトナム、マレーシア等9カ国の政府・企業関係者が県内企業を視察
- ✓ 県内企業の製造現場を公開するオープンファクトリー
  - ☞ 万博を機に様々な技術に関心を持った子どもたち、のべ 300 名以上が参加
- ✓ 滋賀県観光キャンペーン「いこうぜ♪滋賀・びわ湖」を万博閉幕の 10 月まで実施

### 参加した経験、海外との交流、技術との出会いを深め、未来につなぐ

#### ▶ レガシーにつながる令和8年度的主要な取組

- ✓ 企業の海外展開の支援強化
  - ・ Tech Tour SHIGA の継続とつながりを活かしたビジネス機会の創出 ・海外市場開拓支援
- ✓ 国際交流の深化
  - ・ 姉妹友好州省との交流の深化      ・ 万博を契機としたつながりをいかした国際交流
- ✓ シガリズムの更なる推進
  - ・ 万博で得られた反応や経験等を大型キャンペーンにつなげる

- ✓ 湖沼の価値の発信
  - ・ 万博を通じて理解・共感を広げた湖沼の価値や魅力の更なる発信と連携
- ✓ 子どもの体験・学びの充実、未来に向けたひとつづくり
  - ・ オープンファクトリー
  - ・ 体験プログラムの充実
  - ・ 令和7年度に導入した「滋賀・体験の日(※)」のレガシーを継承し、県立学校の児童生徒の探究的な学びを充実させるために学校外での体験・探究活動を後押しする制度として、令和8年度から「しが体験・探究の日」を実施  
(※県立学校の児童生徒が万博、国スポ・障スポ大会に参加・観戦する場合は学校を欠席扱いしない運用)

など